



財団法人日本医療機能評価機構認定病院  
DPC II 群  
地域医療支援病院  
地域がん診療連携拠点病院  
臨床研修指定病院

Iwate prefectural Central Hospital

NO.277  
2017 May

岩手県立中央病院

# ふれあい



2017 新 1 年次研修医

## 基本理念

高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院

## 目次

2017 年度の年度はじめにあたって	院長	望月 泉	..... 2
紫波地域診療センターの新年度を迎えるにあたって	紫波地域診療センター長	小野 満	..... 3
沼宮内地域診療センター新年度のごあいさつ	沼宮内地域診療センター長	菅原 隆	..... 3
医局のご紹介	統括副院長	野崎 英二	..... 4, 5
初期臨床研修を終えた皆様へ	医療研修科長	木村 尚人	..... 6
心臓りはびりで乗り越えよう 狭心症・心筋梗塞	循環器内科医長	金澤 正範	..... 7
	理学療法士	高橋 清勝	..... 7
私の仕事	保安専門員	佐藤 敏	..... 8
編集後記	広報委員長	島岡 理	..... 8

## 【行動指針】

1. 良質な医療の提供
2. 優れた医療人の育成
3. 地域医療機関への診療支援
4. 救急医療の充実
5. 災害医療の体制整備
6. 臨床研修体制の充実
7. 健全で効率的な病院経営

※広報誌「ふれあい」は1,800部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。

## 2017年度の年度はじめにあたって

院長 望月 泉



2017年の年度はじめにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。平成27年度の医療費が41兆円超と過去最高を更新する中、消費税増税が見送られ、財源確保が困難となっており、平成30年度に予定されている診療報酬・介護報酬の同時改定が厳しくなるのは必然かもしれません。全国では病院の統合・集約化は既に始まっており、われわれ県立病院も自分たちで自院の進むべき方向を明確にしていく必要があります。昨年は第66回日本病院学会の開催、中央病院の本、オープンホスピタルなど様々な取り組みを行ってきました。今年は大きく3つの目標を立てて実現させたいと思います。

1. さらなる連携の推進と病院機能の充実です。地域完結型の医療を目指し、医療介護連携、医科歯科連携のさらなる推進を行います。住み慣れた地域で最後まで暮らせる地域包括ケアシステムの構築を進めます。また、患者さんを待たせない、断らないを念頭に医療を行います。
2. 職員すべての研修、教育が大切です。専門医制度は1年立ち止まり、平成30年度開始される予定です。内科、外科などの基幹型プログラムをはじめ、2階部分となる各専門科 subspeciality 各科のプログラム整備が必須です。また、認定看護師制度をはじめ専門薬剤師等各部門での資格取得などが求められます。
3. 私も来年定年を迎えますが、この病院に勤務することができ、本当に良かった、充実した人生であったと思えるような病院作りが大切です。勤務環境の整備、職員満足度の向上です。患者満足度は職員満足度が上がらなければけっして向上しないことを肝に銘じております。

4月1日、待望の診療科である形成外科を開設します。高機能センター病院としての当院の診療科はほぼそろったのではと思います。県民のニーズに答えるより良質な医療を提供していきます。

本年は9月2日（土）、第6回県立病院総合学会を盛岡市で開催します。テーマは「地域になくてもならない病院一人を育て、医療の質・経営の質を高める」としました。多くの参加者を期待します。平成31年9月には、岩手医科大学病院が矢巾に移転します。盛岡医療圏の救急医療体制、当院の地域救急救命センター等あるべき姿を構築する必要があり、本年度から取り組みたいと思います。

以上、年度はじめにあたりのごあいさつとさせていただきます。

## 紫波地域診療センターの新年度を迎えるにあたって

紫波地域診療センター長 小野 満

春爛漫の季節になり、あちこちに落の臺が咲いており、また桜も咲き始める一年でも一番嬉しい時を迎えております。

当センターはH.18年4月にそれまでの岩手県立紫波病院から紫波地域診療センターと呼称を変え、その春に私も県立中央病院よりこのセンターに赴任してきました。中央病院とは異なり、のんびりと診察や回診を行った記憶があります。19床の入院があると、当然当直の医師が必要で、中央から応援の医師にもお手伝いいただき、何とか継続しておりましたが今度は突然に病床を撤廃するとの話が出てきました。町内では当然反対の意見が大多数でしたが、H.21年4月に無床診療所になりました。そのために看護師の削減と当直医の業務が無くなり、人件費の削減が実行され赤字から黒字に転換されました。その後も病床回復運動はくすぶりつづきましたが、年月と共に消滅していきました。

紫波センターの庭には四季折々に様々な花が咲きます。まず4月には千昌夫の北国の春にてでくる白いこぶしが春を告げます。そして事務室の窓から見える桜でソメイヨシノとそれよりもピンク色の濃い江戸彼岸桜です。同じころ水仙が咲きニホンスイセン、ラッパスイセン、クチベニスイセンそして鈴蘭のように咲くスズランスイセンです。5月になれば夏に咲く朝顔の種を、続いて秋に咲くキバナコスモスの種を植えます。また裏に小さな畑がありミニトマトやキュウリそしてスイカなどの苗を植えて、夏に収穫し職員一同で味見をしています。このように当センターは花や果実を鑑賞することができます。近くにおいでの際は是非お立ち寄りください。



## 沼宮内地域診療センター新年度のごあいさつ

沼宮内地域診療センター長 菅原 隆

2017年4月より岩手県立中央病院附属沼宮内地域診療センター長を拝命しました。

沼宮内診療センターは2002年10月に病床数60床で現在の場所に新築移転され、2011年4月より無床化されています。現在、常勤の医師は外科1名、内科1名ですが、本年6月末で内科医が退職予定です。

医師不足のため、県立中央病院や紫波地域診療センター等より、内科、循環器科、消化器科、脳神経外科、整形外科、小児科、皮膚科の先生方に応援をいただき、専門医としての診療をしていただきながら、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの慢性疾患の“かかりつけ医”としての役割も持って診療しています。また、地域の健康増進のため健診事業にも積極的に取り組んでいます。

当センターは、中央病院のベテランのOBの職員が多く、また、放射線科、栄養管理科などにも中央病院から応援をいただいています。入院や対応困難な救急患者さんは、ほとんどを中央病院にお願いしていますが、いつも快く引き受けていただいています。



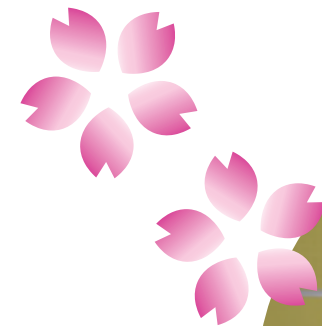
以前より、岩手町の開業医の先生方と連携を取りながら運営していますが、より一層、地域の先生方との連携を深め、地域から信頼される診療センターとしての役割を果たしていきたいと考えていますので、引き続きよろしくようお願い申し上げます。

このたびは初期臨床研修終了おめでとうございます。岩手県立病院群の中核である非常に忙しい医療を支えていただき感謝申し上げます。

医師として始めて働いた2年間は非常に大切で、先生たちの今後の基準となります。当院は情熱と知識を持った上級医と向上心に富んだ研修医のおりなす調和により日本で一番の研修病院であると自負しております。当院で研鑽を積んだ2年間は必ず先生たちの医師としての礎となってくれると思います。

3年目からは独立した医師として歩まなければなりませんので、この2年間がんばった先生ももう少しがんばれた先生たちもたゆまぬ努力を続けて、さらなる大きな医者となって未来の岩手の医療に貢献していただければと思います。

最後になりますが、私自身医療研修部として2年間先生たちと働けて幸せでした。また一緒に働ける日を楽しみにしております。



瞬く間に2年が過ぎました。この2年間で多くの方から温かいご指導を賜り、深く感謝申し上げます。研修終了後は当院の総合診療科にて糖尿病や内分泌の分野を学びます。新しい環境で精進して参りたいと存じます。 赤沼 英

初めて貰った患者様からの感謝の手紙。嘔気でご不安がるお婆さんで結果は経過観察。そんなお婆さんからのとても心温まる手紙。医師の幸せは患者様から感謝されること。今後も患者様から感謝されるよう頑張ります。 宮澤 寿和

この2年間大変なことや辛いこともありましたが毎日が充実しており有意義でした。2年間で様々なことを経験し医師としても一人の人間としても成長できたと思います。一人前になるため今後も頑張っていきたいと思えます。

佐藤 吉通

終わってしまえばあっという間の2年間でした。紆余曲折も多く、決して楽しいことばかりではありませんでしたが、苦しんだこと、悩んだことも今後の人生において大いに役立つと信じています。ありがとうございました。

畑岡 知里



研修当初は右も左もわからない状態でしたが、各診療科の先生方や院内外のスタッフのサポートによって、県立中央病院での充実した2年間を送ることができました。今後は循環器内科医として、より研鑽を積んでいきたいと思えます。

和山 啓馬

医師としての始まりの2年間は本当にあっという間で、学生時代に詰め込んだ医学の知識はもちろん大切でしたが、刻一刻と変わる現場でどのように立ち振る舞うか、いつも必死でした。常に初心を忘れずに、勉強していきたいと思えます。

曾根 美都

2年間の研修生活は刺激的で充実したものであった。特に救急外来は、研修医の活躍の場であり、最も学びが多い場でもあったと思う。そこで多くの先生方から教えていただいたことを、今後は自分が指導する立場として後輩研修医に伝えていきたい。

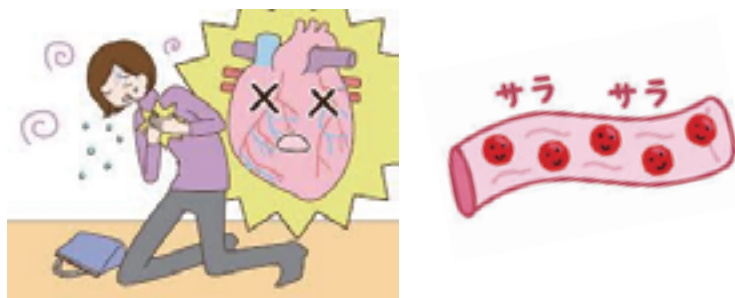
藤田 涼

## 心臓リハビリで乗り越えよう 狭心症・急性心筋梗塞

循環器内科医長 金澤 正範

生活習慣病や喫煙がまねく、動脈硬化に起因する心臓病には、心臓の筋肉に血液を供給する冠動脈の狭窄により心臓の筋肉が酸欠状態になる狭心症や、冠動脈の閉塞により心臓の筋肉が窒息状態になり壊死してしまう心筋梗塞があげられます。いずれの疾患も、胸部の圧迫感や締め付けられ感の症状がみられます。症状が強ければすぐに医療機関を受診するようにしましょう。狭心症や心筋梗塞では心臓カテーテル治療（風船治療やステント治療）、冠動脈バイパス手術が行われます。しかし、治療が終わったらそれで終わりではなく、再発予防が非常に重要です。

また、そもそも病気にならない予防はさらに大切です。狭心症や心筋梗塞の原因となる生活習慣病の改善が非常に重要であり、そのためには日頃からの運動習慣が非常に大事です。心臓病のない方は体力に合わせた運動を行いましょう。心臓病になってしまった方は、心臓リハビリテーションというプログラムを行い、心臓に負担のない範囲での運動を行います。かつては心臓病の患者さんは絶対安静を保つよう指導された時代がありましたが、近年は心臓に負担のない範囲で体を動かしたほうが良いということがわかってきました。心臓病をお抱えの方で自分に適した運動量を知りたいという方は、ぜひ医師にご相談するようにしてください。



理学療法士 高橋 清勝

心臓リハビリテーション（以下、心リハ）は、狭心症や心筋梗塞における治療の1手段になります。実施に関しては、専門スタッフの指導のもとで安全に行われるものですが、具体的には次の①～④の内容で構成されます。①運動の種類：ウォーキング等の有酸素運動が推奨されます。②運動の強度：運動負荷試験による設定が良いとされていますが、年齢をもとに計算した脈拍数や自覚症状を参考に実施することも可能です。③運動の時間：連続10分程度から始め、徐々に30～60分まで延ばしていきます。④運動の頻度：最低週3日、出来れば毎日行います。

これらのことを実践すると、「体力が回復する」、「筋肉や骨が鍛えられる」、「冠動脈の再狭窄やバイパスの閉塞を予防する」、「動脈硬化の原因を改善する」、「不整脈が減少する」等の効果が期待できます。心リハを行う際の注意事項として、気分のすぐれない時は休む、季節に合わせた服装で行う、食直前や食直後1時間は避ける、適度に水分補給を行う、実施前の準備体操や整理体操を実施する、等が挙げられます。最後に、心リハは心疾患の再発予防も目的となっており、一生涯続けることが大切です。今回の内容が、皆様の健康の一助になれば幸いです。

県立中央病院で保安専門員として働いています。  
仕事の内容は職名から察しがつくかと思いますが、院内の保安に関すること、つまり、院内でのトラブル・暴力・暴言・不審者等の対応に関する事が主な仕事です。

しかし、職員の一人として、本来優先して取り組む事案が無い日常は外来患者さんの再来受付や案内、車椅子を利用される患者さんのお手伝い等をしています。  
この仕事も必要な事ですから、自然にさり気無くお手伝いをする様に心がけています。  
その他に、敷地、駐車場周辺の巡回の際は敷地内の環境の美化にも気を配り、見つけたゴミや煙草の吸殻等は拾うように心がけています。

通院される皆さん方に心穏やかに安心して受診していただくためにも必要だと認識して実行しています。

最近では、戸惑うことなく案内できるようになりましたし、患者さんから声をかけられる様な事も多くなり保安専門員としてやりがいを感じているところです。

これからも、皆さんとの「ふれあい」を大事にして病院職員の一人として仕事をしていきたいと考えています。

皆様、今後とも宜しくお願い致します。

## 編 集 後 記

桜の開花宣言も出されようやく春めいてきました。新しい職場、新しい環境にそろそろ慣れてきた方もまだまだ悩んでいる方もおられるでしょうか。桜と言えばお花見のことを少し。日本人はお祭り好きで何かにつけお祭りにする事が多いですが、花見は日本古来からの伝統行事だったようです。現在では花見と言えば桜ですが、その昔は桜ではなく梅であって遣唐使が廃止された平安時代頃から、梅ではなく桜を花見として愛でる様になったらしいですね。その後、時代とともに貴族行事と農民神事が融合し現在に至っているのではないかとの説があります。貴族の行事として行われていた桜を愛でて歌を詠むという風習がだんだんと武士にも広がった頃より、酒を酌み交わし宴会を行う祭りと変化していった事と、山や田の神である「サ神」と神が集まる「クラ」が合わさりサ神が鎮座する木ということで「サクラ（桜）」と呼ぶようになり、冬をもたらす山の神を送り返し、春を呼ぶ田の神を迎え五穀豊穡を占うという農民間で行われていた神事とが融合して現在の花見に至ったという説が有力の様です。伝統行事としての桜の花見、どんちゃん騒ぎするだけではなく古の心に浸り桜を愛でるのもまた、一興かもしれませんね。本年度もよろしく願い申し上げます。



## おしらせ

次回の健康講座は・・・



平成 29 年 6 月 4 日 (日)

14:00 ~ 16:30

プラザおでってで開催します。

多くの方のご参加をお待ちしております。



 岩手県立中央病院

〒020-0006 岩手県盛岡市上田 1-4-1  
TEL:019-653-1151 FAX:019-653-2528  
<http://www.chuo-hp.jp>

ふれあい No.277 平成 29 年 5 月発行  
中央病院広報委員会

◆委員長 島岡 理

相馬 淳	板倉 宏樹
吉川 和寛	及川 真由美
山本 優子	小野寺 春菜
佐々木 貴美子	曾我 美沙希
東館 依吹	佐藤 僚太
菊池 莉栄	吉田 奈穂子

「ふれあい」はホームページでもご覧いただけます。

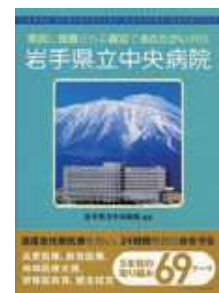
# 医局のご紹介

皆さんは「医局」といって何を思い浮かべますでしょうか。最近のテレビ番組で20%を超える高視聴率を獲得しているDoctor-Xでしょうか。「私、失敗しないので」という決め台詞を吐くフリーランスの天才女性外科医、多くの医師を従え廊下の中央を闊歩する大病院の偉そうな院長、「御意」と言って権力にへつらう中間管理職の医師達、豪華な個室に入院した富裕層の患者から菓子箱に入った札束を受け取る医師達、そのようなマイナスなイメージは困ります。大都会ではいざ知らず地方にある当院の医局は全く違います。



当院には外科・消化器外科、消化器内科、循環器内科、腎臓リウマチ科など27の診療科があり、医師達はそれぞれの専門分野に分かれて仕事をしています。その詳しい診療内容の集大成が「岩手県立中央病院」の本(写真1)です。病院の医療情報プラザひまわり図書室に置いてありますので、是非お読み下さい。医師達は分かれて仕事をするだけでなく、全体でまとまって取り組んでいることがあります。一つ目は若手医師達の教育です。実は当院は東北地方でトップクラスの研修教育病院です。医師の構成は、初期研修医(卒後2年目までの医師)37人、後期レジデント(卒後3年目以上)25人、各診療科のスタッフ(指導医クラスの医師)119人と若手医師の割合が約34%と多いのが特徴です。図1に年度別の若手医師達(一年次、二年度次研修医、後期レジデント)の数を示しました。平成16年度から増加しています。これは、この年から新しい臨床研修制度が開始されたからです。この制度は、医師が将来専門とする分野にかかわらず基本的な診療能力を身につけることができるようにするもので、この制度のおかげで卒後間もない医師達(初期研修医)が、幅広い領域の一般的な病気を勉強するため地方の総合病院に来るようになりました。

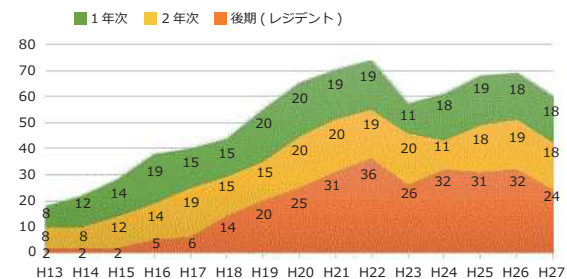
二つ目が全科が協力して行っている救急医療です。図2に当院の救急車の受け入れ台数を示します。最近では6400台(盛岡医療圏の約50%)受け入れていますが、図1に示した若手医師達の増加と図2に示した救急車搬入台数の増加傾向が平行しているのが分かると思います。救急医療の現場では、指導医のもと若手医師達が生き生きと活躍しているのが示されていると考えます。



(写真1)

三つ目が、地域診療支援です。図3は中央病院が公的病院に対して行っている診療支援の全貌を表しています。なお、初期研修医が行っている地域病院での2か月研修は含まれていません。一日7人の医師達が他病院の応援を行っています。具体的には、専門医は他病院の専門外来を、若手医師達は当直や一般診療の応援を行っています。兼務発令で月単位の長期に渡る応援のこともあります。院長はじめ病院幹部も沿岸の診療所や小規模病院の当直応援を行っています。勿論、テレビ番組であるような裏でお金が渡されるようなことはありません。以上のように、中央病院が岩手県になくてはならない病院になるための三つのミッションの屋台骨を支えているのが医局です(医局の平成28年度送別会、写真2)。

研修医・レジデント数の推移(図1)



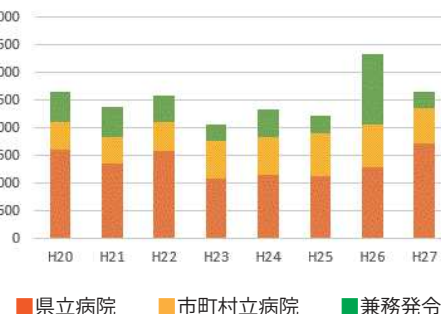
救急医療 当直医7名体制(+ICU、小児科) (図2)



岩手県立中央病院の診療応援 年2,657回(平成27年度) (図3)

一日平均7人の医師が不在になる。

年度推移



平成28年度 医局送別会

(写真2)

